

**オムロン株式会社 2020年度 1Q決算  
投資家様向け電話説明会 質疑応答（サマリー）  
（2020年7月28日）**

**<全社業績、経営・戦略>**

Q：4月末と比べて、現時点での通期見通しはどのように変化しているか？

A：4月はコロナ影響が大変深刻だったため、3月に策定した計画は一旦保留とし危機対応中心にやってきました。3月に策定した計画に対して、現時点の通期見通しは、売上・利益ともに大きく減少している。2Q以降もコロナ影響による厳しい事業環境が続くという前提で考えているため。

Q：1Qの売上総利益率が向上している理由は？

A：過去から取り組んできたコストダウン、付加価値の高い商品・ソリューション展開の拡大によるプラス効果に加え、構造改革の成果や事業ミックスの改善が効いている。  
なお、前年から0.6ポイント改善しているが、為替のマイナス影響除くと1.3ポイント向上させている。

**<制御機器事業 関連>**

Q：7月以降の見通しについて教えてほしい。

A：日々お客様の状況が動いているため、厳しめに見通している。  
自動車業界中心に消費は減退しており、設備投資順延の動きは今後も起きると考えている。  
このような状況下においても、変化対応力を発揮し、事業機会を確実に捉えていく。

Q：コロナショック後に顧客のマインドの変化はあるか？

A：いまは混乱期なので、設備投資に慎重になっているお客様が多い。  
中長期的にはリスク低減のために地産地消の動きは拡大する。  
従来の生産一極集中型から、消費地に近いところで比較的小型の生産拠点を複数配置するようなモノづくりへ変化していくと考えている。統合コントローラをキーに、新しいニーズに応えていく。

**<ヘルスケア事業 関連>**

Q：遠隔診療サービスの事業規模はどれくらいを想定しているか？

A：アメリカで展開していく遠隔診療サービスは、今後5年間で利用者10万人を目指している。  
今後は地域拡大が重要。アメリカだけでなく、イギリスやオランダのように遠隔診療に対して保険点数がつく国が増えている。